



# 校長室だより

令和6年度

11月1日

NO. 32

## 読書の秋！本が子供たちの心に届くように…



バーコードによる貸し出し



「さえずり」さんの読み聞かせ



校長先生おすすめの本

図書の電算化システムが整備され、子供たちも図書室で、バーコードを使って簡単に本を借りられるようになりました。休み時間には、本を抱えいそいそと図書室に向かう子供たちの姿も見られます。コンピューターでの管理により、学校の本の管理から子供たちの貸し借りの管理やその状況まで、すぐに分かるようになりました。

また、学習環境委員会では、六年生の心陽さんがインタビューに来て、校長先生おすすめの本の紹介を、お昼の放送で流してくれました。上学年・下学年に分けて、好きな本、おすすめの本を三〜四冊紹介したところ、早速、休み時間に本を借りに来る子もおり、進んで本を読もうとする子供たちの姿に感心しました。

三十日には、十月の「さえずり」さんの朝の読み聞かせがありました。久しぶりの読み聞かせに、子供たちはお話に聞き入っていました。一日のスタートに、本に集中しその世界に入り込む時間は、とても貴重な時間です。思わず、私も聞き入ってしまいました。

六年生が読み聞かせをしてもらった「二番目の悪者」は、とても考えさせられるものでした。動物たちの何気ない噂話により、最後には、動物たちの国は荒れ果てていってしまいます。表紙の「考えない行動しないという罪」の言葉は、現代のいじめの問題や、ネットの悪口、様々な情報をすぐに信じてしまうことなど、現代社会や私たちの生活にも関係する、心に刺さる一冊でした。

有名な経営者や世界で活躍する多くの人は、本をたくさん読んでいます。変化のある先の読めない現代社会において本は、自分の考えや生き方を支えたり助けてくれたり、後押ししてくれたりしてくれます。そうなるために、小学校のうちから、読み聞かせや読書を通して、心を動かされたり、行動を起こさせてくれたり、夢中になってのめりこんだりする体験ができる必要があります。

子供たち自身にもおすすめの本が増えるといいと思います。

- 「さえずり」さんの読み聞かせ 「これはのみのぴこ」(谷川俊太郎)、「ハロウィンのかぼちゃ」(ますいさちみ)、「やっぱりじゃない!」(チョーヒカル)、「ふたりはいつもともだち」(もいちくみこ)、「かちかちやま」(西本鶏介)、「らくごえほん てんしき」(川端成)、「二番目の悪者」(林木林)、「わたしたちのカメムシずかん」(鈴木海花)
- 校長先生のおすすめの本 「いのちの木」(ブリッタ・テカトラップ)、「りゆうががあります」(ヨシタケシンスケ)、「まちは、しごとでできている」(大滝まみ)、「らいぎよのきゅうしよく」(阿部夏丸)、「夏の庭」(湯本香樹実)、「中村哲物語」(松島恵理子)、「世界がもし100人の村だったら④子ども編」(池田香代子)